



Scene.1
オリジナリティの高い240ベースのハイスポーツ
NISSAN Fairlady 240ZG RB30改 Sports Injection



Scene.2
大胆な発想がまたひとつ
新しいZを誕生させた
NISSAN Fairlady Z HS30 VQ35



Scene.3
憧れのハイパーハコスカをオートマ・エアコン・パワステで!
NISSAN Skyline 2HT RB25 AT

Rocky Magicの真実

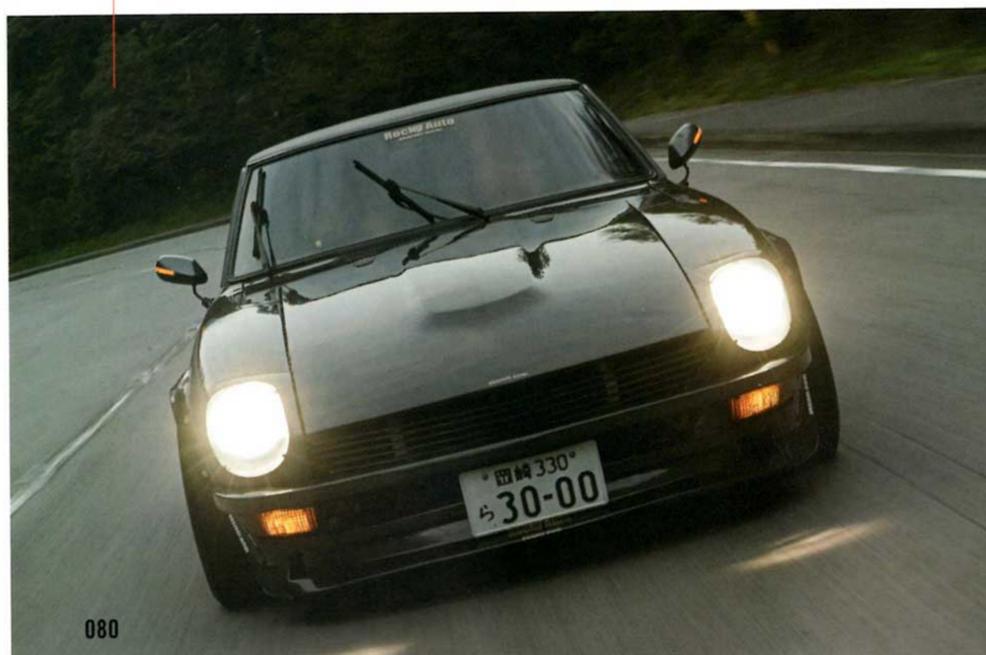
[総力特集]

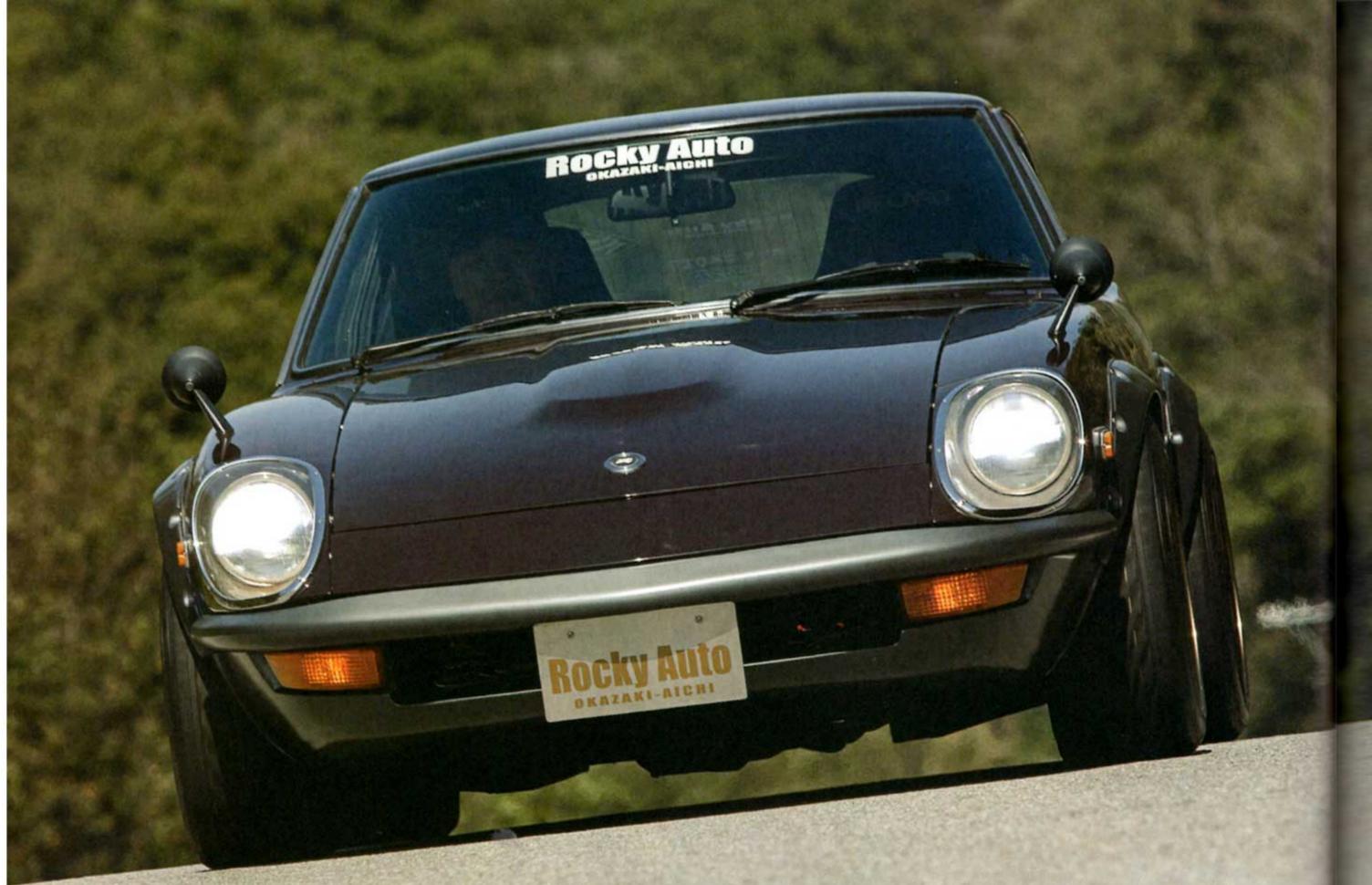
Scene.4
小気味いい走りが身上的ライトウェイトカーボンZ
NISSAN Fairlady S30Z RB30 SOLEX

Scene.5
大型ブローワーで味わう
究極のアメリカンテイスト
NISSAN Fairlady Z HLS30
Super Charged L

Scene.6
ロッキーオート自慢の強烈な自己主張モデル
NISSAN Fairlady S30Z RB26NA 6連スロットル

1970年代、パワフルにストリートを開歩していた国産旧車を見事なまでに平成に蘇らせたロッキーオート。いちはやくエンジンコンバートという手法を取り入れ、今を快適に走るクラシックとしてリリースされる輝くマシンたちは、多くのクルマ趣味人の心を捉えて離さない。ここにその技術の結晶ともいえるエンスー・ジャスティックな6台を紹介しよう。





Rocky Magicaの真実
SCALE 1

オリジナルティの高い 240ベースのハイスポーツ

NISSAN Fairlady 240ZG RB30改 Sports Injection



オリジナルティの高い240ZG。多くの青少年と大人の心を奪ってきた一台である。

昔、憧れの存在だったフェアレディ。その240ZG、しかもメイン専用色のマルーンとなれば、ジャパニーズクラシックファンを釘付けするにこれ以上のクルマはないといえるだろう。

その憧れの240ZGを、オリジナルにできる限り忠実に再現したのがこの一台である。いかがだろう、外観はまさに純正240ZG。入手困難なGノーズ（もちろん本物の純正）も装着されている。

外観の細部を見てもオリジナル度は高い。純正Gノーズをはじめとし、純正のオーバーフェンダー、砲弾型の純正フェンダーミ



壮大なシフトノブブーツが存在した当時のままの状態が見事に再現されている。このノブに手にできるオーナーは幸せ者だ。



レブカウンターは、RB30改のハイパワーエンジンに合わせて換装している。シフトインジケーター付きだ。



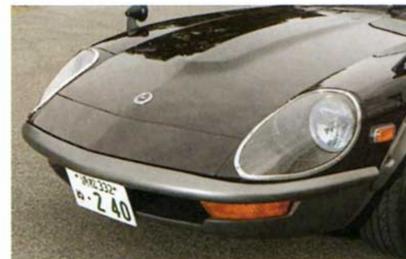
フェアレディZのアイコンともいえる3連メーターは、レイアウトをそのままに最新型を搭載。



純正のテールランプ、車名ロゴ入りのリアスポイラーと、まさにマニア垂涎の逸品である。



うっとりするような垂涎の cockpit。まさにオリジナル240ZGの魅力に満ちている。



240ZGの象徴ともいえるGノーズ。入手困難ながら、このクルマは純正を使用している。



フェンダーミラーも純正。今では存在しないこのパーツこそ純正を志向するオーナーのための装備だ。



走りのパフォーマンスを迫る上でも、リフトの前後バランスに影響するリアスポイラーは欠かせない存在だ。



ドアの内張りも純正仕様で美しい。痛みやすい手回しハンドルの状態もすこぶるいい。

ラー、フロントノーズ先端のZマーク、そしてロアのバンパー形状に至るまで、そのこだわりは徹底している。

きれいな状態のカバーが装着されたヘッドライトはHIDに換装されている。テールスポイラーとテールランプもオリジナルで、憧れていた“当時”に思わずフラッシュバックしてしまうこと請け合いである。

ドアを開け、コックピットに滑り込む瞬間を想像していただこう。目の前に広がるのは、まさにオリジナルに近いコックピットパーツだ。大径のステアリングホイールの中央にはDUTSUNの文字。エンターテイン

っと刺さるレタリングである。ステアリングは、ラック&ピニオン式の油圧パワーステアリングとなっている。

メーター類、ダッシュパネルなどもオリジナルに近い雰囲気、きわめて美しい仕上がりになっている。シフトノブはウッド。憧れの砲弾型だ。シフトノブブーツの仕上がりがいい。センターコンソールではあの3連メーターが存在感を放ち、その下にはオートエアコン、HDDナビが装着されている。現代には欠かせないETCも装着済みだ。

人の乗り降りによって経年劣化が激しいシートは、現代版として走りの性能を向上

させたこだわりのハイスポーツであることを主張すべく、左右ともレカロシートに換装され、スポーツドライブを行った場合でもドライバーとパッセンジャーの上部をしっかり支えてくれる。

またコックピットに6点式のアルミロールバーを入れ、ボディ剛性をいっそう向上させている。

ノーマル然とした味をハイパーエンジンで愉しむ。まさにロッキーマジックの王道である。約40年も前の憧れの名車が、現代の最新技術で安心して乗れるクルマとして蘇ってくれるのだから。

しっとり感のある走り しかも底抜けにパワフル!

セル一発ですぐにエンジンが目覚め、RB30改の迫力あるエキゾーストノートがコクピットにこだまする。RB30をベースにメカチューンを施し、スポーツインジェクションで武装したエンジンへの期待が响の鼓動とともに高まっていく。

迫力あるサウンドとは裏腹に、240ZGは滑るように走り出した。その瞬間、ボディ剛性の高さを感じる。ロッキーオートは、オリジナルのテイストを妨げることなくボディ剛性アップにこだわる専門店であり、その実力の高さは走り出すとすぐにわかる。



6連スロットルのスポーツインジェクション。一度走ったら忘れられないほどの感動を提供してくれる。

アクセルを踏み込むと、シートに上体が沈み込むようなものすごい加速だ。6連スロットル スポーツインジェクションを装着した直6エンジンが遺憾なくパワーを発揮する。しかし、ターボ仕様ではないこともあるが、パワーフィールにしっとりとした滑らかさを感じた。

これも、ベースとなる車体に合わせてエンジンを選択し絶妙なチューンナップを施すロッキーマジックである。単なるパワーアップではなく、ボディの補強に始まり、エンジン自体のチューンナップからエンジンの搭載に至るまで、クルマ全体としての高次元バランスに徹底してこだわるのがロッキーオートの哲学なのだ。

ボディは、センターフレームとサイドステップまわりの補強に加え、ストラットまわりの溶接補強が主なポイント。サスペンションは、前後ともアラゴスタ車高調とロッキーオートオリジナルのピロテンションロッド、レース用スタビライザーを装着。至高ともいえるサスペンションパーツを高剛



等長のエキゾーストパイプ。“等長”は渡辺喜也氏のこだわりだ。性能はもちろん、見た目も美しい。

性ボディが活かし、低速からサーキット走行まで、4輪がしっかりと接地する安心感とそれによるレスポンスに優れた感動のハンドリングを愉しむことができた。

クラシックカーを現代の技術で復刻する醍醐味である。当時にタイムスリップして、当時のままの安心感をもって、名車の復刻の走りを堪能していただきたい。



カーボン製ストラットタワーの下に鎮座するRB30改。前面に大型ラジエーターを配した上で、クーリングには徹底してこだわっている。このマウント位置が重要なのだ。



Rocky Magicom
Scene.1
NISSAN Fairlady Z 240ZG RB30改
Sports Injection

クルマを愛するオーナーのハートを虜にする、危険なほどの魅力に満ちた乗り味が待っている。

オリジナルそのままのテイストを再現しながら、4輪で踏ん張るようなスポーティな雰囲気が高まっている。一度現車を目にしたらあなたは逃れられるか?



純正オーバーフェンダーぎりぎりに装着されるのは、ブリヂストンの前後異幅タイヤ。RSワタナベのホイールもベストマッチングである。エキゾーストフィニッシャーは、ジャパニーズクラシックの雰囲気を壊さない控えめの太さ。



アルミロールバー6点式と、乗員の上体をしっかりとサポートしながらもこの車両にマッチしたデザインのリカロシート。ドライバー側は4点式シートベルトが装着される。

NISSAN Fairlady Z 240ZG RB30改 Sports Injection

車体	<ul style="list-style-type: none"> ・センターフレーム補強 ・サイドステップ補強 ・ストラットまわり溶接補強
エクステリア	<ul style="list-style-type: none"> ・純正Gノーズ ・純正オーバーフェンダー ・HIDヘッドライト
インテリア	<ul style="list-style-type: none"> ・ラック&ピニオン油圧パワステ ・オートエアコン ・アルミロールバー6点 ・左右レカロシート ・HDDナビ ・ETC
エンジン	<ul style="list-style-type: none"> ・RB30改 (3000cc) ・RB30ブロック RB26ヘッド取り付け ・6連スロットル スポーツインジェクション ・モーターク ・大容量アルミラジエーター
サスペンション	<ul style="list-style-type: none"> ・前後アラゴスタ車高調 ・ピロテンションロッド ・レース用スタビライザー
ブレーキ	<ul style="list-style-type: none"> ・F APロックード4ポット ・R ディスク
ホイール	<ul style="list-style-type: none"> ・RSワタナベ ・F 9Jx16 R 9.5Jx16
タイヤ	<ul style="list-style-type: none"> ・ブリヂストン ・F 205/50-16 R 225/50-16



Rocky Magicの真実
SCAPE 2

大胆な発想がまたひとつ 新しいZを誕生させた NISSAN Fairlady Z HS30 VQ35



ブルー一色のボディをまとって駆け抜けるHS30は、ロッキーオートの新たなチャレンジを象徴する一台。

停滞は後退を意味するという哲学のもと進化を続けるモータースポーツチームのように、ロッキーオートは常に新たなチャレンジを続けている。その、果敢なるチャレンジングスピリットが生み出した新たな一台がここに紹介する珠玉のZ。何と、フェアレディ240Z HS30に、VQ35エンジンを搭載するという大胆な発想を現実のものとし、日本で公認済ナンバー付き販売車とすることに成功した一台である。VQ35エンジンは、3,500cc V6 DOHC 24バルブであり、2000年の日産エルグランドに初搭載され、2002～2008年のフェアレディZにも搭載されたエンジン。このVQ35をベースに、ボンネットの左右にアルミラジエターを装着してベストな

クーリングを実現するなど、ロッキーオートオリジナルのチューンナップを実施して搭載。トランスミッションは、6速マニュアルに変更し、強大なパワーとともに、240Z HS30に圧倒的な速さをもたらした。単に大型のハイパワーエンジンを搭載しただけではない。可能な限りフロント車軸の後方、車両の重心寄りに搭載することで前後重量配分を最適化させている。前後軸重は、フロント550kg、リア490kgという素晴らしい。これにより、きわめて乗りやすいハンドリングを実現している。「このクルマの乗りやすさは最高と言っても差し支えない。ぜひ一度ステアリングを握って欲しい」と、渡辺喜也氏は語る。すでにお気づきかもしれないが、前述の前後軸重を合計すると1,040kgになる。こ

れは通常のHS30より軽く仕立てられているのだが、渡辺喜也氏は当初、1,000kgを切るという高い目標に挑んだという。それほどのチャレンジを重ね細かな努力を積み上げることで、車両重量1,040kgをマークする軽量化を実現したのだ。軽さは、クルマの運動性能のすべてに好影響をもたらす。大パワーで、約1,000kgという軽量スポーツカーの走りが、どれほど楽しいか、本誌を手にとった読者であれば容易に想像できることだろう。しかし実車は、おそらくあなたの想像を超えたレベルの感動をもたらすというのが、実際にこのクルマのステアリングを握った筆者の正直な感想である。インテリアは、軽量化のためにドアの内張りなどが剥ぎ取られているものの、ドラ



車軸後方に寄せられて搭載されたVQ35エンジン。この写真からも軽量化に挑む志の熱さが伝わってくる。



きわめてシンプルなコックピット。明らかに軽量化に挑み、サーキットなどでの走りを目指したモデルである。



大排気量エンジンのクーリングのために追加されたアルミラジエター。デザインも美しい。



リアまわりはきわめてシンプルでノーマルに近い状態。バンパーはブラック。



3連メーターは、水温計、油圧計、燃料計に換装している。シンプルなデザイン。

イバーを陶酔へと導く、独特の高揚感に満ちている。剥き出しのスチールボディから立ち上がる6速MTのシフトノブは、プロダクションレーシングカーの雰囲気をたたえたシンプルな仕様である。3連メーターは、水温計、油圧計、燃料計に換装。スピードメーター、タコメーターも非常にきれいである。細かなス

イッチ類も操作しやすいレバー式。全体としてレーシーな雰囲気に満ちており、こうしたテイストを好む乗り手を大いに満足させてくれるに違いない。ただ単に剥ぎ取って軽量化を図ったレーシング車とは違い、ジャパニーズクラシック所有の喜びを高めるために、日常も走りのステージとするのがロッキーオート流。ひと味違うテイストを試して欲しい。

Rocky Magicの真実
Scene.2
NISSAN Fairlady Z HS30 VQ35



ご自身がステアリングを握ったときの興奮を想像して欲しい。これは夢ではなく、現実に行けることなのだ。



ボンネットフードのアルミラジエターへとつながる冷却システム。旧車で起こりやすいオーバーヒート対策をしっかりと施すこともロッキーオートこだわりのひとつである。

ローダウンにより“ツライチ”になったタイヤとフェンダーの関係が美しい。RSワタナベの8本スポークホイールと相まって、絶妙のルックスに仕上がっている。



エンジンの前部ががらんと開いたボンネットフードの風景。路面も見えている。まさに宙吊りされた状態だ。アルミラジエターへのパイプが宙を通っている。



これほど美しいブルーのボディをまとった、レーシーなZを見せつけられたら、どう反応したらいいのだろう。それにしてもZのロングノーズ・ショートデッキは、何度見ても美しい。

ノーズの入りは別次元！ 曲がって楽しいフェアレディ

独特の鮮やかなブルーにオールペイントされた車体は当然ながらフルレストア済みであり、写真で見ての通りの美しさである。非常にきれいに仕上がっている。

カーボンで作られた軽量化前後バンパーとRSワタナベのエイトスポークホイールはブラックで統一され、ボディのブルーと好対照をなしている。

レーシーなインテリアを見るまでもなく、

フロントの低い位置に装着されたチンスポイラーを見れば、このクルマが目指すところが窺い知れよう。サーキットの狼世代にとっては、一生に一度はこんな街道レーサー風のZに乗ってみたいかと唸りたくなる魅力的なエクステリアである。

走らせてみると、どんな経験を積んだドライバーであったとしても快哉を叫ぶのではないだろうか。それほど操ることが楽し

いのである。第一に軽量であること、そしてエンジンの搭載位置などがもたらす理想的な前後軸重が多量なる貢献を果たし、ステアリングをわずかに切るだけでノーズが入っていくのだ。見出しにある通り、「なんだノーズの入りは！」と叫びたくなるほどの楽しさなのだ。

もちろん、重量に関するだけでなく、フロアメインフレームを補強し、フロントメンバーを追加して剛性強化されたボディをベースに、前後車高調整式のショックアブソーバーと、フルピロ化した足回りが奏功している。フロントは、テンションロッドのロアアームとし、スタビライザーのリンクをピロ化。リアは、リンクをピロ化した

ワンオフのロアアームが密着している。これで、走りが楽しくないわけではない。さらに、フロントをスリット入りのオリジナルローター&キャリパーとし、リアをディスクとしたブレーキの効きのよさが、その楽しさを支えている。

ブレーキに関するこだわりもロッキーオートは独自のものを持っている。現代のクルマと比較してブアなブレーキを強化することで、特別な存在である旧車の運転を“自然で安心感あるものに変える”というのが渡辺喜也氏の持論である。そして、高性能なブレーキは、ロッキーオートが製作する高剛性シャシーがあつてこそ機能する。つまりボディ強化は、より多くのドライバ

ーに旧車の走りの楽しさを安心して味わってもらうためのこだわりなのだ。

そうして仕上げられたHS30 VQ35は、小さなRが連続する日本のワインディングで、そして本格的なサーキットで、ライバルより軽快に曲がって、しっかりと踏ん張り、強大なパワーで一足先にコーナーを立ち上がって行くことだろう。

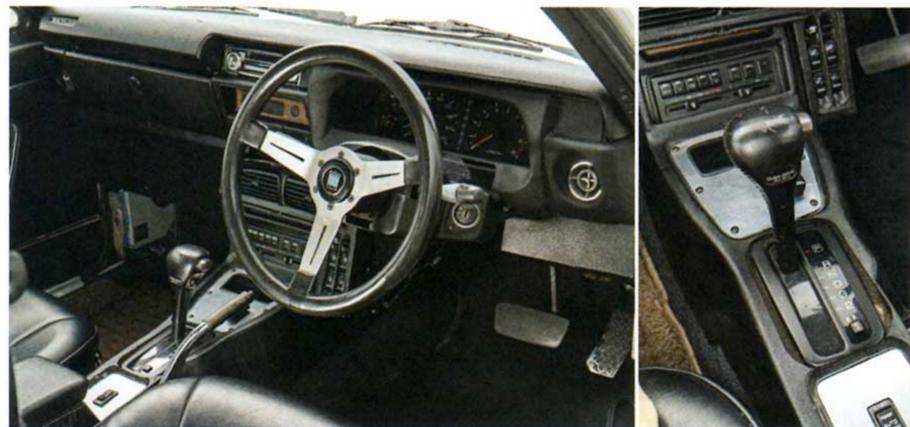
これほどまでにトータルで考えられてレストアされたジャパニーズクラシックが他に存在するのだろうか。個々のマシンを見ていくたびに、ロッキーオートによるロッキーマジックに驚かされる。やはり、何事も志を持って事に当たることが大切なのだ、あらためて思い知らされた次第だ。

NISSAN Fairlady Z HS30 VQ3

ボディ	・フロアメインフレーム補強 ・フロントメンバー製作
エクステリア	・フロントカーボンバンパー ・リアカーボンバンパー ・カーボンリアガーニッシュ
インテリア	・水温計、油圧計、燃料計、スピード、タコメーター ・6速マニュアル
エンジン	・VQ35エンジン (3500cc) ・アルミラジエター ・電動ファン
サスペンション	・前後車高調整ショック ・F テンションロッド ロアアーム ・スタビリンク ピロ化 ・R ワンオフフルピロ ロアアーム
ブレーキ	・F オリジナルスリットローター&キャリパー ・R ディスクブレーキ
ホイール	・ワタナベ F 8Jx16 R 9Jx16
タイヤ	・ヨコハマ F 205/50R16 R 225/50R16



一見するとオートマ仕様には見えない迫力に満ちている。GT-R仕様のエクステリアは大きな価値である。



インテリアはほぼ純正の状態を保っている。写真ではわずかしき見えませんが、張り替えられたシートが美しい。外見はGT-R仕様でありながら、実は運転のしやすいオートマ仕様というのもありだと思ふ。

走りは快適そのもの。外觀の仕上げも1972年式のクルマに見えないほど美しい。

憧れのハイパーハコスカを オートマ・エアコン・パワステで!

NISSAN Skyline 2HT RB25 AT

Rocky Magicの真実
SCAPE.3

ジャパニーズクラシックに強烈な憧れを抱く方でも、扱いにくいなら敬遠したい…という方は多いことだろう。そんな方のための貴重な一台が、このハコスカである。1972年式のスカイライン2ドアハードトップをベースに、より多くの方が気軽に愉しめるさまざまなコンディションを整えた一台である。

運転しているとき重要になってくるのが、タイトルにある通り“オートマ・エアコン・

パワステ”仕様であることだ。オートマ2ペダルとパワステで、日頃運転している現代のクルマと変わらぬ気軽さで運転できる。そしてオートエアコンで夏も快適な上、雨などによるやっかいなガラスの曇りも心配無用なのだ。パワーウィンドウも装備され、文句なく快適である。

そして、運転するより前の段階で重要となるのが、エンジンがスムーズにかかるかどうかということ。このハコスカに搭載し

たRB25エンジンは、インジェクション仕様であるため、季節を問わずエンジンの始動もスムーズなのだ。安心して走り出せ、快適に運転できるハコスカであることがこのクルマの一番の魅力と言えよう。

インテリアは、ほぼ純正の状態が保たれている。メーターナセルには、日産の純正メーターを移植。センターインストゥルメントパネルまわりは、経年変化があるものの、きちんと整備されて良好な状態を保っ



純正メーターがきれいに収まるメーターパネル。オートエアコンが装備されていることは、安全に快適にドライブしたい方にとってきわめて重要である。



黄金色のヘッドカバーをまとったRB25。ロッキーオートでは、車両のコンディションとあわせてエンジンを選択する。

ている。シートは前後とも張り替えているため、傷みもへたりもなく、きわめてきれいな状態であることも嬉しい。また、旧車でたまに気になることがある室内のホコリ臭さも一切なく、快適にドライブすることができた。

前後のガラスをGT-R純正の白ガラス(しかも新品)に変えているため視界も良好。また、ヘッドライトにハロゲンH4バルブを装着しているため、ハコスカで

になりがちな夜間の暗さも安心して運転できるコンディションになっている。

エンジンは、2,500cc直列6気筒DOHC 24バルブのRB25を搭載し、パワーアップを図っているため走りは迫力満点。エキサイト加速を愉しむことができる。RB25は、1988～1989年に発売された、セフィーロやローレル、R32スカイラインなどに搭載されたエンジンで、著名な林義正氏の設計による日産最後の直6エンジン。

快適でありながら、日産の直6エンジンが持つスムーズで力強い走りを気軽に愉しむことができるハコスカである。

生粋のマニアからすると、オートマ仕様でオリジナルではないRBエンジン搭載のハコスカなどと思われるかもしれない。しかし、いろいろな人がいるからこそ楽しいともいえる。敷居をつくるより、たくさんの人にこの世界の門戸を開きたいというのが、ロッキーオートの想いでもあるのだ。

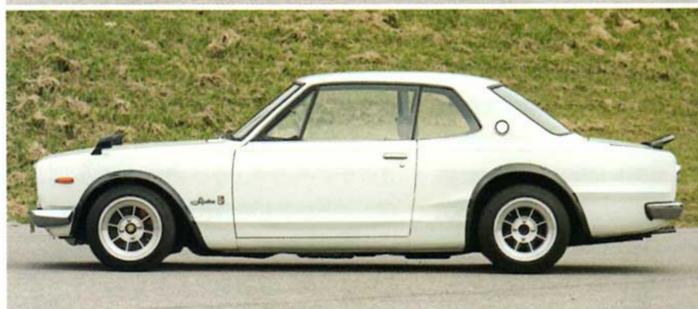
真夏のロングドライブもOK これ1台で極楽クルマ生活

真夏でも快適なドライブができるということは、まさにこのハコスカ一台でも十分に快適なカーライフを営めることを意味する。こうしたクルマに出会えることは、ジャパニーズクラシックに接するなかでもきわめて稀に巡ってきたチャンスだ。このクルマに出会ったオーナーは、おそらくは長く付き合い、極楽かつ誇りに満ちたクラシックカーライフを愉しむことになるはずだ。

その長く乗るカーライフにおいて、所有の喜びを高め続けてくれるのがGT-R仕様のホットなエクステリアではないだろうか。専用のオーバーフェンダー、テールスポイラーや前後メッキバンパーをはじめ、エンブレム、42φのデュアルマフラー、ライトハウジングのメッキパーツ、メッキアウタードアハンドルなどで仕上げられたエクステリアは、所有の喜びを刺激するに十分。

毎日見ても見飽きない、普遍的とも言える輝きを放っている。また、ハヤシストリートのアルミホイールは、ボディ両端と“ツライチ”で美しい上に迫力満点。レーシングホイール市販化の草分け的存在の伝統のホイールをまとっていることも、このクルマを所有する喜びにつながることも請け合いである。

走りは、きわめてスムーズかつパワフル。右足を踏み込めば、予想を超えた加速力を味わわせてくれる。ワインディングに入っても、ギアの切り替えがない分、ステアリングワークに集中できる楽しさがあった。6代目スカイラインDR30用フロントディスクブレーキの効きもよく安心して走れた。



非の打ちどころがないハコスカのボディライン。ただただ陶酔あるのみである。このソリッド感、スクエアでありながら流れるようなラインを合わせ持つ絶妙のボディワークだ。

ボディは、フロアメインフレームを補強して剛性アップを図り、足回りには、前後強化サスペンションを装着。タイヤは、ヨコハマ・アドバン NEOVA AD08で、フロントが255/35R 18、リアが295/30R 18の大径極太仕様。安定感ある走りを約束してくれる。ハコスカが本来持つ、高次元の走りの性能をよりバランスよく向上。ATと相まって、それこそ毎日通勤に使えるほどの乗りやすさを実現しながら、アクセルひと踏みで非日常にトリップできる“爪”を持った一台である。

もし、ご自身の愛車がこのハコスカになったらどうなるかと想像して欲しい。日常ユースには困らないのだ。用事があって、クルマに乗ろうとするたびに、ドキドキと胸が高鳴る。なんと幸せなことだろう。

NISSAN Skyline 2HT RB25 AT

ボディ	・フロアメインフレーム補強
エクステリア	・GT-R仕様 ・前後GT-R純正新品白ガラス ・H4バルブヘッドライト
インテリア	・オートエアコン ・パワーウィンドウ ・オートマチックトランスミッション ・パワーステアリング ・前後シート張替 ・NISSAN純正メーター移植
エンジン	・RB25DE ・RB25インジェクション ・φ42デュアルマフラー
サスペンション	・前後強化サスペンション
ブレーキ	・F DR30ディスクブレーキ
ホイール	・ハヤシストリート F8J R9.5J
タイヤ	・YOKOHAMA ADVAN NEOVA AD08 F 255/35R-18 R 295/30R-18



ヘッドライトまわりを際立たせる専用のメッキパーツ、メッシュグリルにGT-Rエンブレム、ホワイトウインカー。



テールランプまわりのクロームメッキパーツとGT-Rエンブレムも圧巻。心を込めて磨いてみたい。



他のモデルと一線を画すテールスポイラー。白いボディに映えるブラックカラー。微妙なRが美しい。



ハヤシレーシングの日本グランプリ出場マシンに装着されていたアルミホイールを市販化し、大ヒットしたのがこのストリートホイールである。シンプルだが機能美に満ちている。

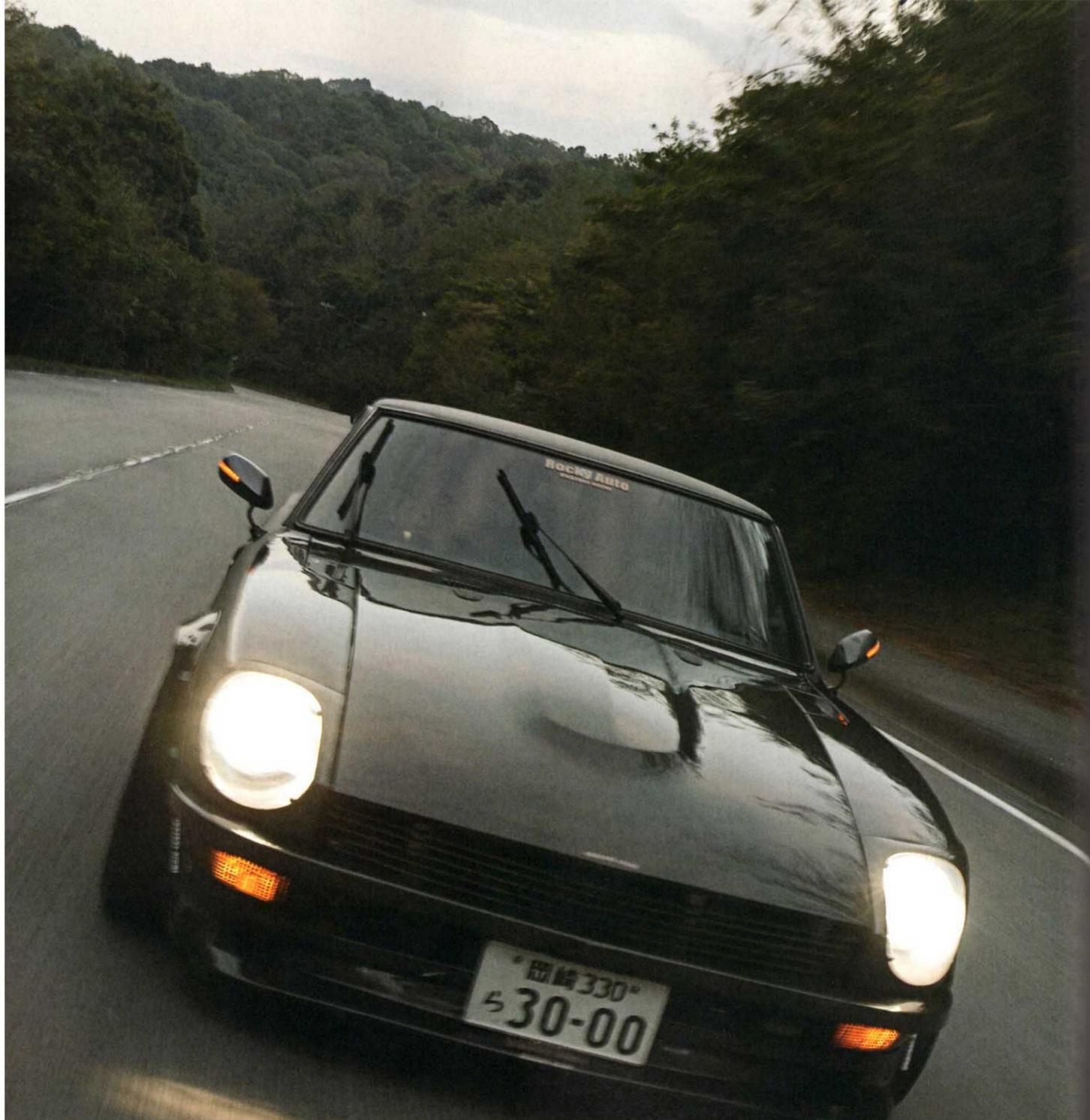


フロントサスペンションのダンパーマウント部分。ナットにより微妙な位置調整が可能。



前後重量配分をより最適化し、スペースの点からもトランクルームに積まれたバッテリー。





Rocky Magicの真実 Scene.4

小気味いい走りが身上的 ライトウェイトカーボンZ

NISSAN Fairlady S30Z RB30 SOLEX



ドアミラーも軽量のカーボン製。ウインカーライトも装備している。後方視界も良好だ。



機能美あふれるレイズのTE37V。最もリムが深いタイプ。迫力あるデザインである。タイヤは前後とも15インチ。

ジャパニーズクラシックに乗るという趣味領域において、新たな価値創造に挑み続けるロッキーオート。気難しいコンディションのオリジナルエンジンにこだわる良さも認めながら、より快適にパワフルに、かつて憧れたクルマを愉しみませんか？と問い続けている。

そのチャレンジの究極ともいえる一台が、ここにご紹介するS30Z RB30 SOLEXである。カーボンパネルを多用した軽量ボディをまとったライトウエイトZだ。

初代S30Zをベースに、ロッキーオートオリジナルのカーボン製前後バンパーを装着。オーバーフェンダー、チンスポイラー、ライトベゼル、カウルトップ、ボンネット、リアハッチ、リアガーニッシュにカーボンパーツを採用。RB30エンジンを搭載しながら1,040kgの軽量化を達成した。もちろん単なる軽量化ではなく、ロッキーマジックがボディの隅々まで行き渡っており、高剛性・高強度を実現しての軽量化の達成が他と一線を画すところである。ボディの詳細は後述したい。

外観は、ボンネットとテールゲート、そしてオーバーフェンダーが艶のあるブラッ



寸分の狂いもなく、美しく組み上げられたカーボンパーツ。雰囲気にあわせ、ヘッドライトカバーもスモーク。



まさに機能美に満ちた一台。完成された珠玉のZと言うにふさわしい外観である。ホイールの風合いからライト類のレンズのスモークカラーまで、トータルで統一感のある美しさが追求されている。

クで、ボディ側面がマットブラック。低く構えた機能美あふれるデザインに仕上がっている。

アルミホイールは、F1やGT1世界選手権で高い評価を獲得しているレイズの、レース直系の最高峰ブランドである Volk RacingからTE37Vを採用。ブロンズカラ

一のディープリムによるレーシーな外観とこの上なき高性能を追求している。

まさにストイックな走りの楽しさの世界を極限まで追求したZといえるのではないだろうか。誰よりも速く、かっこよく……を追求したいオーナーにとって恰好のモデルである。



Rocky Magicon
Scene.4
NISSAN Fairlady S30Z RB30 SOLEX



フルバケットシート、4点式フルハーネス、ロールケージ。あるべきものがあることの安心感。



まるでプロダクションレーサーの cockpit。あのシフトノブをオーナーとして操作してみたい。



きわめてシンプルな眺め。ダッシュセンターには5つのメーターがある。剥き出しとなったダクトが物々しい。

センターコンソール後方にバッテリーを搭載。前後軸重の最適化に寄与している。



「どんなに高性能なエンジンを搭載しても、ボディがしっかりしなければ本来の性能を発揮することができず、開発する意味がありません。すべての原点はボディ」渡辺喜也氏は、クルマづくりの基本となる信念をこう語った。「開発する意味がない」とまで言い切るボディづくりにかける情熱。それが遺憾なく発揮されているのがこのモデルである。

シャシー全面を徹底した施工でグッドコンディションに仕上げ、その後にフロアメインフレーム、フロントパイプフレーム、サブフレームを追加・補強。さらに、ボディのスポット増し補強、ストラットタワー付近、エンジンマウント付近、デフマウント

トータルで見直された しなやかな足回りが最高!

付近など過酷な状況にさらされる部分に補強を施す……。まさにゼロから総点検するようにして、ロッキーオートはボディづくりを実施するのである。

そして、単なる軽量パーツの採用では到底及ばない高みへとベースボディを現代の技術で進化させるのだ。

その、徹底して高剛性化したボディの理想のポジションに独自のチューンを施した

RB30エンジンを搭載する。

今回搭載したエンジンは、RB30のブロックを使用しながら、国産エンジン最強と言われるRB26DETTのヘッドをリファイン・NA化して搭載。吸気系は50φのソレックスキャブ、排気系は48φの等長6-1ステンレス製エキゾーストマニホールド、ワンオフのステンレスマフラーを採用してパワーアップ。5速マニュアルトランスミッ

ションとのマッチングで、圧倒されるほど強大な加速を実現している。

足回りは、メンバー、リンク、素材、可動部のすべてを最新の解析技術を用いて徹底的に洗い直してワンオフで製作。特にサスペンションメンバーにはアルミを使用。前後車高調ダンパー、強化プッシュなども用い、ジオメトリーがゼロから考え直されている。

そうして実現された走りは、圧倒的な速さはもちろんのこと、実にしなやかで味のあるフィールなのである。だから、安心感に包まれながら、どこまでも攻め込んでいきたい。15インチというタイヤ&ホイ

ールの選択も効いているのだろう。

まさにロッキーマジック。乗った者を虜にする、危険なほど濃密なテイストを持ったZであると感服した次第だ。

Cockpitは、ブリッドのフルバケットシートにモモ製ステアリング、サベルト4点式フルハーネス、ロールケージという神器を搭載しているほか、FRPでダッシュボードをワンオフ製作、ドインナーパネルはカーボンでワンオフ製作されている。

アルミ削り出しのシフトレバーや樹脂製ボールノブ、ダクト剥き出しのクーリングシステムなどレーサーさながら。スティックオーナーのための珠玉の一台である。



NA化されたRB26DETTのヘッドが眩しいRB30エンジン。50φのソレックスキャブ、48φの6-1エキゾーストマニホールドが美しい。このRBエンジンであるが、走りのためだけでなく、補記類にも余裕のパワーを供給してくれる。



大型のラジエターを搭載。高性能エンジンのパフォーマンスを引き出すには、クーリングが重要なのだ。右は、きわめてコンパクトに造作されたストラットタワーバーの強化マウント部分。

NISSAN Fairlady Z S30Z RB30 SOLEX

ボディ	・フロアメインフレーム補強 ・フロントパイプフレーム、サブフレーム補強 ・ボディスポット増し補強
車両重量	・1040kg
エクステリア	・オリジナルカーボンパーツ製前後バンパー ・カーボン製前後オーバーフェンダー ・カーボン製前スポイラー&ライトベゼル ・カーボン製カウルトップ&ボンネット ・カーボン製リアハッチ、リアガーニッシュ ・カーボン製ドアミラー ・各レンズ類スモークカラー
インテリア	・FRPワンオフダッシュボード ・ドインナーパネルワンオフカーボンメイト ・ブリッドフルバケットシート ・モモ製ステアリング ・ロールケージ ・追加メーター ・サベルト4点式フルハーネス
エンジン	・RB30改 ・RB30ブロック+RB26DETTツインカムヘッド ・270度カム ・ソレックスφ50キャブレター ・φ48ステンレス等長6-1エキゾーストマニ ・ワンオフステンレスマフラー ・樹脂製燃料タンク ・タンクインインジェクションポンプ ・クスコLSD ・OS技研製クロスミッション ・強化カーボンクラッチ
サスペンション	・前後車高調 ・強化プッシュ ・アルミビレットサスペンションメンバー
ブレーキ	・F ニッサン4ポットブレーキシステム ・R ニッサン2ポットブレーキシステム
ホイール	・レイズ TE37V ・9Jx15 R 10Jx15
タイヤ	・TOYO TRAMPIO ・F 205/50R-15 R 225/50R-15



ボンネットの盛り上がりによって、外観からもスーパーチャージャー搭載モデルであることがわかる。ドアノブスモーキングのためボディ側面が美しい。



カーボンボンネットフードの中央部が盛り上がっているが、デザインとして美しく収まっている。



ボディ同色のリアスポイラーはシンプルなデザイン。高速時にリアの浮き上がりを抑制する。



カーボン製ドアミラー。シンプルでユニークな造形だ。ウインカーライトも内蔵されている。



2本出しのマフラーは、ワンオフで製造したもの。リアバンパーロアの左右から出されている。



フロントのタイヤサイズは205/50R16。ホイールはレイズのVOLK RACING TE37V。深いリムが美しい。



リアタイヤは、205/55ZR16。駆動輪であることから、高速レンジのZRタイヤを装着。

系のZにも搭載された。いわばZオリジナルエンジンであり、アメリカではターボモデルも発売され大ヒットした。L型エンジンは、バリエーションが多くパーツも豊富で、シリンダーブロックの剛性が高いことからチューニングエンジンとして人気が高い。

そのL28エンジンをベースに、L28スーパーチャージャーを搭載。クーリングのために3層のアルミラジエターや高性能のコ

ットン製湿式のK&Nエアフィルター、ポッシュ燃料ポンプ、ECUにモータックM4を採用。ワンオフの2本出しマフラーを装着。圧倒的な高出力を安定して供給するパワープラントとしている。

トランスミッションは5速マニュアル。アクセルをグッと踏み込むと猛烈な勢いで加速する。このZの現役当時では信じられないような走りである。まさに、究極のアメリカンテイストが味わえる。

もちろん、ボディにはフレーム補強などロッキーマジックが施されており、前後強化サスペンションで安定して駆け抜けて行くことができる。

日本にもさまざまなジャパニーズクラシックオーナーが存在し、こうしたアメリカンテイストを味わいたい方も多いのだ。オーナーズミーティングなどで、こうした異色の一台があると楽しいに違いない。多様性があればこそ繁栄があると思う。

Rocky Magicの真実 SCAPED.5

大型ブロワーで味わう 究極のアメリカンテイスト

NISSAN Fairlady Z HLS30 Super Charged L

ものすごい勢いでスピードを上げていくHLS30のスーパーチャージャー。直進安定性も高い。

ジャパニーズクラシックのファンは、実は日本だけでなくアメリカにも多く存在する。いや、アメリカの方が盛んでは？と思えるほど、SEMAショーなど大々的なイベントなどが数多く開催されているし、ショップも多い。その、アメリカンテイストを逆輸入したのがこの一台。

輸出モデルのダットサン280Z HLS30型(1982年式)をベースに、L28エンジンをスーパーチャージャーでパワーアップして搭載した日本初のHLS30改である。

見るからにアメリカンテイスト。スーパーチャ

ージャー搭載のために、わずかに浮き上がったボンネットはカーボン製。他にも、前後バンパー、前後スポイラー、リアパネル、ドアミラーもカーボン製となっている。ホイールは、レイズTE37V、ダイヤモンドカットリムの16インチ。タイヤは前後と

も205幅の16インチと決してパンチはないのだが、全体がマッチョな筋肉質に見えるのはホイールのデザインやチンスポイラー&テールフィンデザイン、カラーリングなど、随所にアメリカンテイストが散りばめられているからだろう。

エンジンはL28。ブルーバード510に搭載された4気筒L13に端を発する日産のL型エンジンの直列6気筒シリーズ。排気量は2,800ccで、セドリックやグロリアに初搭載され、2代目となるS130

真っ赤なヘッドには"NISSAN"の文字が。L28用のスーパーチャージャーを採用している。





ガッツリと踏んで愉しむ 魅惑の加速Gに乾杯!

Rocky Magicom
Scene.5

NISSAN Fairlady Z HLS30 Super Charged L



精悍なHLS30のプラ構え。フロントの開口部が大きく、クーリング性能の良さが想像できる。



フロントは、効きを重視してブレンボキャリパー&大型ローターを装着、リアはディスク化し、ウィルウッドのキャリパーで性能と軽量化の両立を図っている。



スピードメーターは、マイル表示がメイン。メーター類はすべてホワイトメーターに加工。



コックピットは至ってシンプル。必要十分なパーツが揃っている。あとは心熱きオーナーが乗るだけだ。



5MTのシフトノブは、スポーツカーのセオリーともいえる球形。

ドアの内張りにはダットサンのマークが。いかにもアメリカン。



エアクリナーは、評判の高いK&N。フロントグリルからダイレクトに入り込んでくる外気を吸う。



16インチタイヤと程よいローダウン具合。オーバーフェンダーを装着するでもなく、外観はおとなしめであるが、中身はガッツリとアクセルを踏み込んで強烈な加速を楽しめる過激派。すべてをわかった大人が乗るべき一台だろう。



きわめて大型のアルミラジエター。スーパーチャージャーを効かせまくっても安心のクーリング性能。

コックピットは、きわめてシンプルだ。新品のダッシュボードを装着し、メーター類をすべてホワイトメーターに加工。ステアリングはモモ社製。5速マニュアルのシフトノブは球形で操作感に優れている。シートは張り替え済みでとても美しく、心地よい座り心地で、ゆったりと上体を預けることができた。

ドライブしてみると、スーパーチャージャーの猛猛な加速を楽しむのが第一の魅力には違いないのだが、強化されたボディとサスペンションやR200デフの恩恵から、予想以上にハンドリングを楽しめるマシンであった。右に左に切るステアリングワークにもレスポンスよく反応し、鼻先の重さを若干感じはするものの、総じて楽しくコーナリングを満喫することができた。何よりもコーナー立ち上がりの加速が気持ちよ

く、つついペースが上がってしまう。そうなったとしても、だらしくフロントが出ることはなく、しっかりと踏ん張ってコーナリングしていってくれる。

フロントがブレンボ、リアがウィルウッドのディスクブレーキの効きも頼もしく、安心してアクセルを踏み込むことができた。一見して直線番長的なアメリカンルックスの輸出モデルだが、そこはロッキーマジックが随所に効果を発揮していて、感心することしきり。胸のすくテストドライブだった。

とかくチューニングは一方に行きがちだが、さまざまな方にジャパニーズクラシックを楽しんでもらうことをめざすロッキーオートでは、いろいろな可能性を秘めたモデルが用意されているのが嬉しい。興味を持たれたらぜひ実車をご覧ください。

NISSAN Fairlady Z HLS30 Super Charged L

ボディ	・フレーム補強
エクステリア	・カーボン製ボンネット ・カーボン製フロント&リアバンパー ・カーボン製フロント&リアスポイラー ・カーボン製リアパネル ・カーボン製ミラー ・ドアノブスムージング ・ポップアップドア
インテリア	・オートメーター ・MOMOステアリング ・シート張替
エンジン	・L28エンジン (2800cc) ・L28 スーパーチャージャー ・3層アルミラジエター ・K&Nエアクリナー ・ポッシュ燃料ポンプ ・C/P モーターM4 ・左右2本出しマフラー ・安全タンク
サスペンション	・前後強化サスペンション
ブレーキ	・F ブレンボキャリパー&大径型ローター ・R ディスク化 ウィルウッドキャリパー
ホイール	・レイズ (ガンメタ ダイヤモンドカットリム) F10Jx16 10.5Jx16
タイヤ	・TOYOプロセス T1R F 205/50R-16 R 205/55ZR-16

ロッキーオート自慢の 強烈な自己主張モデル

NISSAN Fairlady S30Z RB26NA 6連スロットル

Rocky Magicの真実
Scene. 6



どうだろうか。ゴールドとメッキカラーを全身にまとったZが走る姿は、強烈な存在感である。

まばゆいばかりのゴールドメッキ。街なかを走れば、注目を集めること間違いなしの一台。ロッキーオート自慢の、強烈な自己主張モデルである。

ベースとなっているのは、1974年式のS30型Z。このZの現役時代には、2リッター直6のL20エンジンが搭載されていた。すでに40年を経過したクルマであるため、当時のエンジンでは、現代のクルマを乗るような感覚では扱えない。

そこでロッキーオートでは、同じ日産の直6シリーズから、次代に登場したRBエンジンをチューンして搭載していることが多い。もちろんオリジナルのエンジンに乗りたいという方には、徹底してその要求に応えるクルマづくりとメンテナンスを行っている。

このS30Zに搭載されたエンジンは、2,600ccのRB26自然吸気タイプ。このエンジンをオーバーホールして徹底的にメカチューンを施し、自然吸気用6連スロットルを奢っている。さらに等長のエキゾーストマニホールドをワンオフで製作して採用。この吸排気系の見直しにより、ハイパワー化を達成するだけでなく、右足とエンジンが一体となったような痛快なアクセルレスポンスを実現させている。

この痛快なフィーリングは、味わった者でなければわからないだろう。このアクセルレスポンスだけでも、このクルマを手に入れる価値があると言っても過言ではない。

そして、RB26エンジンの恩恵は走りに限ったことではない。渋滞などでもオーバーヒートすることなく、エアコンも使用でき、油圧のパワーステアリングの駆動も可

能となった。

これによって、40年前のクルマであるフェアレディZを、まるで現代のクルマのように快適な運転環境で乗れるというロッキーマジックが実現するのだ。

旧車の気難しさに苦慮することなく、この派手なZを、思いっきり走らせるのも面白いのではないだろうか。人生が変わるほどの感動を味わえるに違いない。

アルミホイールには、WORKの5スポークレーシングホイールを再現したマイスターCRシリーズを採用。前後とも15インチ。深いリムと5スポークのデザインが美しい。



美しくエンジンルームに収められたRB26。贅沢な6連スロットルを搭載。ロッキーオートのセオリーともいえる等長のエキゾーストマニホールドも装着。クーリングを考慮して厳正に搭載位置が定められている。



大型のアルミラジエターを搭載。ハイパワー化にともないクーリング性能を向上させなければならない。



リアからの眺めも美しい。上下にフィニッシャーが重なるデュアルマフラーはワンオフで製作。



外観とは対照的にブラックで落ち着いたトーンにまとめられたインテリア。



CDデッキがついている。ジャパニーズクラシックでも、楽しく走りたい。それは誰もの願いだろう。



トランスミッションは5速マニュアル。ペダルは、ノーマル仕様だがとてもきれいだ。

理想のフル装備で期待に応える完成度

派手なエクステリアに目が行きがちだが、当然ながらロッキーオートは、ホワイトボディからきっちりと最新技術によって、ボディをメンテナンスしている。

フロアメインフレームを補強するとともに、各部溶接箇所のスポット増しを実施。この補強によって、RB26エンジンを搭載しても、その強大なパワーをボディでしっかりと受け止めることができるのだ。

その結果、高速道路でも旧車にありがちなフラフラ感は一切なく、安心してドライブを楽しむことができる。

さらに、サスペンションは、前後とも車高調整式ダンパーを装着。加えて、ピロテンションロッドの採用、レース用スタビライザーでの強化により、圧倒的なハンドリングの楽しさを実現している。

ステアリングを握ってみると、まさに驚きのひと言。RB26エンジンによる強烈な加速、6速スロットルの鋭いアクセルレスポンスに思わず陶酔。さらに、かちつとしたボディ剛性に裏付けられた、レスポンスに優れた安心感のハンドリングに、取材を忘れて走り込んでしまったほど。ラック&ピニオン式のパワーステアリングなので、腕に疲れを覚えることもなかった。

インテリアは、基本オリジナルデザインで、ダットサン・レーシングオプションであるコンペステア

リングが装着されている。その他、各部の状態もよく、シートも含めてとてもきれいだ。

CDプレイヤーやオートエアコンも装備されていて、快適な室温で音楽を楽しみながらのドライブも可能。およそ40年前の一般的なジャパニーズクラシックカーでは考えられないレベルの素晴らしいカーライフが待っている。

60年代から70年代に青春を過ごし、懸命に仕事に従事してきた多くの方々に、かつて憧れた日本の名車により快適に乗っていただき、人生を謳歌していただければと思う。そのためには、ジャパニーズクラシックを最新の技術と経験にもとづいて的確にプロデュースしなければならない。ロッキーオートはそれができるのだ。

NISSAN Fairlady Z S30Z RB26NA 6速スロットル

ボディ	・フロアメインフレーム補強 ・各部溶接増し
エクステリア	・ゴールド&メッキ加工 ・カーボンオーバーフェンダー ・リアスポイラーメッキ加工 ・フロントスポイラーメッキ加工
インテリア	・オリジナル重視 ・ダットサンコンペハンドル ・左右シカロシート ・オートエアコン ・パワーステアリング
エンジン	・RB26NA (2600cc) ・RB26NA 6速スロットル ・アルミラジエーター ・ワンオフタコ足
エキゾースト	・ワンオフデュアルマフラー
サスペンション	・前後車高調
ショック	・ピロテンションロッド
ブレーキ	・Fディスク Rドラム
ホイール	・ワーク マイスターCR F 9Jx15 R 9.5Jx15
タイヤ	・TOYO プロクセSTR F 205/50R-15 R 225/50R-15



オーバーフェンダーは前後ともカーボン製。派手な中で、レーシーな雰囲気をたたえている。なめらかな形状、きっちりとフィットした造りと合わせに、渾身の技術が宿っている。

美しく路面を映り込ませる、メッキ加工したフロントスポイラー。



エクステリアは確かに派手なのだが、温故知新の思想で美しさと性能の高さを追求したレーシングホイールを再現したアルミホイールの採用が効いている。絶妙な落ち着きが生まれ、大人が乗れる一台になっているのだ。



リアスポイラーもメッキ加工されてキラキラと輝いている



こんな迫力の後ろ姿を見せつけながら駆け抜けてみたい。そんな夢を抱く方は多いはずだ。

TOYOTA 2000GT Hybrid 発進!

Classic & Custom Car Magazine

Goods Press 12月号増刊 Bullet

[バレット]

Vol.

01

定価 1000円

Bullet

総力特集

Rocky Magicの真実

750馬力“Z”に見る渡辺喜也の本気度
RB vs. Lそれぞれのテイスト



[USAスペシャルレポート]

Excellence J-Classic in CA.

BREピートブロックのV8 DATSUN510